

統計の新たな進歩，発展に向けて

—— 第44回全国統計大会，山形県で開催 ——

日本の統計の進歩発展と統計思想の普及啓蒙に資することを目的として，第44回全国統計大会が，平成5年11月11日(木)，山形県の上山市体育文化センターにおいて盛大に開催されました。

全国から統計関係者約3,300名が集まり，うち本県からは統計調査員，市町村職員及び県職員を合せて74名が参加しました。

大会は，統計功労者や第41回統計グラフ全国コンクールにおける入選者等の表彰，「統計の新たな進歩，発展に向けて」をスローガンとした大会宣言の採択，郷土芸能のアトラクション等が行われ，盛会のうちに閉幕しました。

今回参加された方の中から，3名の方に感想を寄せていただきましたので御紹介します。

なお，来年度の第45回全国統計大会は，平成6年10月27日(木)滋賀県大津市の県立体育館で開催される予定です。



共に喜びあった全国統計大会

真壁郡統計事務研究会長
(協和町総合企画開発課長)

早瀬 廣 一

(大会会場にて)

みちのくの山形県上山市の山々は，錦に彩られ全国の方々を迎えるには絶好の季節であった。

私達，真壁郡統計事務研究会は，統計調査に関する研修を通して，郡内町村の相互連絡，統計事務の刷新改善，会員の親睦を図ることを目的に組織された会である。

事業の一つとして，毎年県外研修を実施しており，二年に一度は全国統計大会に参加することを心掛け，今年はその年にあつた次第である。

会場である上山市体育文化センターには，11月11日早朝到着した。素晴らしい会場はべにはな国体が開催された時に建設されたものと係員から伺った。

大会が始まるまでの時間に統計グラフ全国コンクールの入選作品展に臨むと，さすがに入選した作品だけに，あまりの素晴らしさに感激に浸った次第である。

夏休み中統計グラフ作成のため，一途に取り組んで来た児童生徒の努力と先生の懸命のアドバイスが結集し，全国大会において受賞の喜びを掌中に収めることが出来たことと思われる。

毎年のように夏休みに入ると，統計の窓口には各種統計資料の提供を求め，児童生徒が訪れる。勉学心に燃える児童生徒に快よく資料を提供するには，町の統計要覧は重要な役割を果たしている。

当研究会では要覧を作成していない町村が多かったが，近年作成に取り組んだ町村が目立つようになった。一方，県が主催する統計グラフ作成指導者講習会には，各小・中学校の先生方に積極的に受講していただいている。

統計事務は比較的地味であるが，市町村の構想や計画を進める上で重要な基礎となるものである。

今回，全国統計大会に参加し，児童生徒の優れた成果を拝見し，私達会員一同は更に職務に精励する意欲が沸き，今まで以上に感慨深い研修であった。



調査員さんに乾杯!!

那珂町企画課

係長 川 又 恭 子

※川又さんは，勲全国統計協会連合会会長表彰を受けられました。

「統計は国民の財産」と言われる程高く評価されておりますが，積み上げられた数字はもとより，それを支える調査員さん，申告者を思いながら，少々の緊張と感慨を抱き，第44回全国統計大会を明日に控えた11月10日，上山温泉駅に降り立ちま

した。

集計分析等は、文明の利器の最先端である電算機で処理されてはいても、その元になる数字は、多数の調査員さんの地道な努力による一軒一軒の訪問で始まるのです。最近では共働き家庭や単身者、または人の気配はあっても応答なしの家等さまざま、一軒の家にそれこそ何度となく足を運ぶその御苦労は、この統計事務に携わって始めてわかったことであり、頭が下がる思いです。

先日偶然読み返した「統計通計」(全統連発行No.541「編集後記」)に、「我が国の統計が、“世界に冠たる統計”との高き評価を頂戴して久しくなるが、……この賛辞は、調査の屋台骨を支える部門の“寡黙な面々”である調査員、申告者各位の御尽力と御協力に対する謝辞の句である。」と掲載されていましたが、正にその通りと思えた嬉しい一文でした。

何も彼も機械化されて便利になる中で、統計調査だけは、これからも調査員さんのひたむきな一軒一軒の訪問に依存しなければならないのが実情です。

今回この大会に参加し、調査側、申告者側がお互いの立場を理解し、尊重をもって一枚の調査用紙を完成させ、そしてこれまで以上に信頼される統計係でなければならないと心新たにした次第です。この度の受賞にあたり、常に御指導をいただく県の方々、118名の調査員さんに心より深く感謝申し上げます。

上山市の資料館を染めていた銀杏の黄金色、赤く色づいた楓が儼に今なお刻まれております。皆様、本当にすばらしい日をありがとうございました。



(大会会場にて)

第44回全国統計大会に参加して

美野里町統計調査員

島田 則雄

平成5年度第44回全国統計大会が、山形県上山

市で開催され、美野里町より統計調査員5名、役場職員2名計7名が参加致しました。

大会前日の11月10日に上山市に到着したところ、市の各所に「歓迎第44回全国統計大会」の垂幕が下っており、旅館も各県の統計関係者が多数同宿していたため、お互いに和気あいあいとした中で宿泊することが出来ました。

大会会場の上山市体育文化センターでは、統計グラフコンクール展も開催されていましたが、入賞作品のあまりの優秀さに驚嘆致しました。それらの作品から小・中学生の物の考え方等も判り、こういったグラフコンクールは、統計に対する関心、大切さを認識してもらう良い機会であると感じました。

大会は、全国より約3,300名の統計関係者が集まった中、午前9時30分山形県知事の歓迎の挨拶で始まり、表彰式、大会宣言の採択等と盛大に行われました。

特に印象深く残っていることは、河合三良全国統計大会会長が挨拶の中で、「日本をこれまでに押し上げるに貢献された方々は数多くおられましよう。私はその方々に敬意を表します。しかし、そういう方々も信頼される統計がなかったとしたら、灯りなしで暗い夜道を歩く思いをされたに違いないのであります。私は今日の日本を築いた大きな力の一つとして、こういう統計を作り上げた、過去から現在に至る全国の統計マンの力を挙げたいと思います。」と述べられたことです。その統計マンのひとりである私にとっては、今までの苦労が報われるような嬉しい言葉でした。

統計という仕事は、目立たない、地味な仕事ではありますが、この統計が町を発展させ、県をそして日本を発展させる基礎を作っているのです。誇りと自信をもって仕事に従事すべきであると同時に、責任の重大さを改めて感じた次第です。

最後に、今後も統計の仕事に精励するとともに、統計関係者の皆様の益々の御発展、御健勝を祈念申し上げます、私の感想と致します。

統計の充実，発展を期して

— 第35回茨城県統計大会開催 —

茨城県統計大会が，好天に恵まれた11月30日(火)，水戸市の県民文化センター大ホールにおいて，統計関係者約1,200名の参加を得て盛大に開催されました。

この大会は，統計関係者の一層の自覚と認識を深め，統計事業の発展とともに県民に対する統計思想の普及を図ることを目的として，昭和34年以来毎年開催されており，今回は35回目にあたります。

大会はまず，古内充県統計課長の開会の言葉で式典が始まり，橋本昌県知事の挨拶に続いて表彰式が行われました。統計調査に長年従事され功績の顕著な方々に対する県知事表彰，統計功労者に対する県統計協会総裁表彰と各省庁大臣の表彰伝達のほか，第44回茨城県統計グラフコンクール入賞者，優秀校，奨励校，グラフ指導者の表彰と併せて第41回統計グラフ全国コンクール入選者の表彰伝達等，536名・43団体・45校が受賞の栄誉に浴されました。



橋本知事のあいさつ

次に，来賓の平山憲一総務庁統計局統計基準部国際統計課長を始め川井一郎県議会副議長，菊地勝志郎取手市長（市町村長代表）から，お祝いと統計功労者に対するねぎらいの言葉が贈られ，続いて受賞者を代表して，加賀愛子竜ヶ崎市統計調査員から「決意表明」，協和町立新治小学校6年田崎由美子さんから「受賞の喜び」が述べられました。

最後に，内藤栄取手市企画財政部次長兼企画調整課長の朗読による「大会宣言」が満場の拍手で採択され，坂本清造葦崎町企画課長の閉会の言葉で式典は終了しました。

引き続きアトラクションに移り，伊藤陽一とブルースカイの演奏で志摩幸子「花のステージ」が華やかに繰り広げられ，盛んな拍手のうちに幕を閉じました。

大会の開催にあたり御協力をいただきました関係者の皆様に対し，誌上をお借りして厚くお礼申し上げます。



統計功労者表彰

(左から橋本知事，生田由留吉金砂郷町統計調査員)



統計グラフコンクール入賞者表彰
(左から 川井県議会副議長, 神栖町立神栖第3中学校2年 高波千恵子さん, 堀切育美さん)



決意表明
(加賀愛子 竜ヶ崎市統計調査員)

受賞の喜び
(協和町立新治小学校6年 田崎由美子さん)



アトラクション
(志摩幸子, 伊藤陽一とブルースカイの皆さん)

宣言

今日、わが国を取り巻く環境は、国際化、高齢化、高度情報化の進展等、急速な変化を遂げようとしている。また、社会経済情勢の変化など、新たな課題への対応も求められている。

このような変化の激しい時代にあつて、豊かさとしながいに満ちた県民生活の実現を図り、計画的、効率的な行政運営を進めるためには、統計資料に基づいた正確な現状把握と的確な将来予測が必要不可欠であり、統計の果たす役割は、ますます重要となっている。

ここに、第35回茨城県統計大会を開催するにあたり、我々統計関係者は、その使命と責務の重要性を更に認識し、県民の理解と協力のもとに、時代の要請に対応する統計の充実、発展を期して、次のとおり決議し宣言する。

- 1 地域社会に対応した、統計の整備、充実に努める。
- 2 県民の理解と協力が得られる、調査環境づくりに努める。
- 3 調査結果の早期公表に努め、統計情報の利用、活性化を図る。

平成5年11月30日

第35回茨城県統計大会

(統計課・普及指導グループ)

◆受賞者

〈統計功労者表彰〉

県知事表彰	129名
県統計協会総裁表彰	122名
各省庁大臣表彰	31名 43団体
全統連会長表彰	3名

〈統計グラフ表彰〉

県知事賞	14名
県議会議長賞	7名
県教育長賞	20名
茨城新聞社長賞	10名
県統計協会総裁賞	54名
県統計協会会長賞	100名
優秀校賞	15校
奨励校賞	30校
統計グラフ指導者総裁賞	11名
全国統計グラフコンクール入選者	35名

〔合計〕

536名・43団体・45校